

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

つと魚2匹を持っていることをイエスに伝えるのですが、5千人に食べさせるには何の役にも立たないという正直な思いを吐露します(9節)。

2025年9月12-13日に上智大学を会場に行われた日本新約学会において「説教と新約釈義」と題するシンポジウムがありました。教会や学校で説教や奨励をするには、聖書の言語、歴史、社会、文化などを踏まえる必要があります。聖書は2～3千年前に中近東世界と地中海世界で書かれたものですから、現代人がそのまま理解するには困難な内容が含まれているからです。この点を考慮しないと、勝手な思いつきや自分の考えを聖書に押しつけてしまいます。では、聖書の専門家であれば良い説教ができるのかと言えば、それも違います。聖書学者の関心が教会、学校、社会の関心から離れていたり、心に響かない内容になったりしてしまうからです。説教や奨励には外面的な知識と内面的な精神の両面が必要だということです。この背後には説教者や奨励者が聖書の使信を汲むと同時に、説教や奨励を聴く人の思いをも汲み取り、互いに気づきを得る共有の体験をすることが説教や奨励のダイナミズムだということをシンポジウムで共有したのです。

本日の聖書において、アンデレはイエスの思いを汲むことができていません。それは少年が差し出した大麦のパン5つと魚2匹を無碍にしていることに表れています。アンデレの判断は知識としては間違っていないかもしれませんが、思いを汲むという大切な内面を欠いています。少年の思いを汲むということは小さな思いに寄り添うことをも意味します。酪農学園は創立者たちの小さな思いから始まりましたが、その思いに寄り添ってくれる人たちがいて初めて可能になったのです。後学期の始業礼拝に当たり、本学が大きな問題に立ち向かう強さを求めるだけではなく、ひとりの小さな思いを汲むことのできる弱さに寄り添う歩みを欲しいとの思いを新たにします。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝】2025年9月30日(火)10時40分

聖書：ヨハネによる福音書6章10節

奨励：「原風景——キリスト教と酪農学園と」小林昭博(宗教主任)

【前回の大学礼拝(前学期終業礼拝)】2025年7月29日(火)

学生：21名 教職員ほか：9名 合計：30名

【大学礼拝週報】2025年度 第16号(後学期第1号)

2025年9月23日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司 式 小林昭博(宗教主任)

奏 楽 佐藤理恵(野幌教会会員)

讃美指導 相原晴伴(循環農学類教授)

前 奏 高きにいます神にのみ栄光あれ(J.C.バッハ作曲)

讃 美 歌 讃美歌第21 493番(いつくしみ深い)

聖 書 ヨハネによる福音書6章8-9節

さ ん び 酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「思いを汲む——小さな思いから始まる」

祈 り 小林昭博(宗教主任)

讃 美 歌 讃美歌第21 412番(昔主イエスの)

報 告

後 奏 明るき太陽は今や輝きあらわる(ブロート作曲)

【本日の聖書】ヨハネによる福音書6章8-9節

8弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。9「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」

【奨励】「思いを汲む——小さな思いから始まる」

本日の聖書は前学期から読んでいる「5千人の供食」の物語の続きです。イエスは自分に従ってきた人たちが空腹であることを心配し、どのようにして食べさせたらいいのかをフィリポに尋ねるのですが、フィリポは5千人に食べさせるには200デナリオン(150～200万円)が必要だと途方に暮れます。そこでペトロの兄弟アンデレが登場し(8節)、少年が大麦のパン5